

Power of Illness in the Brontë Sisters' Novels: Infection, Desire, and Women's Resistance

尹, 伊萌

<https://hdl.handle.net/2324/7363548>

出版情報 : Kyushu University, 2024, 博士 (文学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



氏 名	尹 伊 萌			
論 文 名	Power of Illness in Brontë Sisters' Novels: Infection, Desire, and Women's Resistance (ブロンテ姉妹の小説における病の力：感染、欲望と女性の抵抗)			
論文調査委員	主 査	九州大学	教 授	鶴 飼 信 光
	副 査	九州大学	教 授	高 野 泰 志
	副 査	九州大学	教 授	高 木 信 宏
	副 査	九州大学基幹教育院	教 授	中 村 嘉 雄
	副 査	立正大学	教 授	大 野 龍 浩

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

上記の論文は、イギリスのヴィクトリア朝の小説家姉妹であるシャーロット・ブロンテ (Charlotte Brontë)、エミリー・ブロンテ (Emily Brontë)、アン・ブロンテ (Anne Brontë) の七編の長編小説における病やそれに関連する概念、例えば、仮病、隔離、感染、汚染、医師の診断などを、20 世紀のフランス哲学者であるミシェル・フーコーが提唱した権力の「戦略的モデル」に基づいて分析し、女性にとって病の力がジェンターの権力関係を逆転させ得ることや、病をめぐる女性観への女性の抵抗が効力を持ち得ることを解明するものである。

1980 年代以降、研究者の間に、病に付される隠喩に関心が高まって、身体の問題をめぐる一研究分野が形成されており、また、1960 年代のフェミニズム運動により、19 世紀のイギリスにおける女性の地位と権利に関して、ブロンテ姉妹や、その女性キャラクターのフェミニズムの先駆けを成すような意識が注目されてきている。本論文は、そうした先行研究の多くで、女性キャラクターがジェンダー的権力関係の被害者として男性権力者に抵抗し、家父長制の外へ逃げる願望を抱くことが指摘されている中で、被抑圧者の抵抗に、戦略を用いて権力を逆手に取ってポジティブに転覆する可能性を見るフーコーの権力のモデルを援用しつつ、女性が抱く自由への欲望が一時的にせよ、抵抗によって、家父長制の中でかなえられることを解明している点に独創性がある。

本論文は五章構成である。第一章では、エミリーの *Wuthering Heights* を考察し、女性の病弱さの観点で、女性キャラクター間の象徴的な親子関係を分析し、家父長から権力を奪うために、病や仮病が有効であり得ることを明らかにしている。第二章はシャーロットの *Jane Eyre* を取り上げ、病気の女性や反抗的な女性が受ける隔離が示唆する力の関係において、隔離する側が逆に脅かされ、攻撃される様子に注目するとともに、隔離が主人公にとって、外部から身体的・道徳的リスクを避ける手段でもあることを解明している。第三章はシャーロットの *Shirley* と *The Professor* を考察し、産業活動などの公的領域から排除されることが女性の健康に与える悪影響を再考察し、縫い物に対する世代間の態度の違いに注目しながら、女性の公的領域への進出に対する希望の描出を解き明かしている。第四章はシャーロットの *Villette* を取り上げ、伝染病を形成する環境の要因や病への恐怖を分析し、家父長制社会が女性に押しつける「病的な役割」に主人公が抵抗することを解明

している。第五章はアンの *Agnes Grey* と *The Tenant of Wildfell Hall* を考察し、家庭教師や既婚女性として描かれる女性キャラクターたちが、家父長制の抑圧によって身体的・精神的ダメージを受けながらも、不平等な状況や男性の威嚇に対して、抵抗戦略を用いて男性の権力を制限することを明らかにしている。

ヴィクトリア朝期のイギリスで女性は、身体や精神面において男性より弱いとみなされ、そのような弱さが理想的な女性像とされるとともに、女性は公共領域で男性と平等に活動する機会を得られずにいた。しかし、ブロンテ姉妹の小説の女性キャラクターたちは従順な「家庭の天使」ではなく、病や仮病で家父長を威嚇する一方、女性の「病的な役割」を拒否し、家父長的な価値観に抵抗する。本論文は、女性キャラクターたちのそうした抵抗とその効力を、数多くの新たな解釈を提示しながら考察し、ブロンテ姉妹研究に大きく貢献するものであり、本調査委員会は本論文の提出者が、博士（文学）の学位授与にふさわしいことを認める。